

<出題意図（令和2年度一般入試後期日程：地域科学部小論文）>

出題意図 I

問1.

意図的な差別ではなく、「良心的」な人が悪気なく引き起こす差別とはどういったものかについて、本文中の例を用いながら説明することを求めている。

問2.

「I have black friends.」論法とは、人種差別の文脈で、自己の差別を正当化しようとする人が使う典型的な論法とされる。これについて、本文に沿って説明することを求めている。また、この論法が引き起こす問題点についても、合わせて説明を求めている。

問3. この問いでは、良心にもとづく差別を解消するために学問が持つ意義について説明することを求めている。加えて、この点についての受験生の見解を問うている。本文の筆者は、被差別者に投影される勝手なイメージを正確な知識で置き換えていく必要性を説き、そのために学問が重要であると述べている。本文中で触れている学問の持つ性質を踏まえて説明するとよい。

出題意図 II

本問は、多様な価値観を認め、多文化が共生する社会を築こうとする際に、理解しておくべき一般的なバイアスについて認識し表現できる能力を問うものである。

問1.

人間の行動や判断が、学習や経験のみならず、より本質的な認知能力によっても左右されることを理解し、ある価値観からの発言が必ずしも公平ではないことを、本文から読み取りまとめることを求めている。

問2.

アンケート調査から得られた日本人の認識傾向について、一般的なバイアスが生まれる要因を他の文章（【A】）での記述と結びつけて、論理的に再解釈することを求めている。